

地位向上へ5カ年戦略

2WG・3SWGを設置

土木学会・会長
プロジェクト

「土木のステイタスアップ小委」始動

土木学会（田中茂義会長）の2023年度会長特別プロジェクト「土木の魅力向上プロジェクト」のうち、土木技師の地位向上方策などを提言する「土木のステイタスアップ小委員会」（委員長・今西肇和合館工学舎長）が本格始動する。二つのワーキンググループ（WG）と、三つのサブワーキンググループ（SWG）を設置して活動を展開。年内をめどに、ステータス向上のための5カ年戦略の策定などを目指す。



7日に東京・四谷の土木学会本部でキックオフミーティング（オンライン併用）を開き、写真、小委員会の組織体制などを決めた。今西委員長は、もう一方の「魅力ある土木の世界発信小委員会」が土木のすそ野を広げることを目的としているのに対し、「われわれは山の頂上を高くする。

ステータスは平均値では計れない。最大値、最高値を示し、個人としての土木『技師』のステータスを上げる。そうすれば、職業としての土木『技術者』のステータスも上がってくる」と趣旨を説明した。具体的な議論や活動は、WGなどで今後本格化する。長岡工業高等専門学校陽田修氏がリーダーを務める「土木技術者ステータスWG」には、原則全てのメンバーが参画する。土木学会認定資格を運営する土木学会技術推進機構との連携も視野に入れながら、ステータス向上の5カ年戦略を描く。戦略立案に向け、土木技師（シビルエンジニア）の社会における地位（権限・

給与・待遇・博士数など）を医師や教師、弁護士、建築士、会計士などと比較するほか、海外のシビルエンジニアとの比較調査も実施する予定。また、建設業だけではなく、建設コンサルタントや専門工事業、資機材系の技術者の名称を検討・提言する。

次世代人材発掘WGの下には、三つのSWGを置く。砂子組の真坂紀至氏がリーダーを務める「地域と土木のしごとSWG」は、全国の複数の支部と連携しながら一般の意見などを集める。最先端のシビルエンジニアリングのすごさを子どもたちやその保護者、教員らに発信するPR活動の企画なども検討する。清水建設の白木綾美氏がリーダーとなる「先端研究室紹介SWG」は、土木や理系分野に強い関心のある高校生や高専生を公募し、大学の土木系研究室を実際に訪問しても

らう。最先端の技術に触れながら、大学の先生や大学院生らとディスカッションも行う。学生には応募時にエントリーシート、参加後にレポートの提出を求める。交通費などは学会側が支給する。10月21日に早稲田大学、28日に京都大学で開催する予定だ。JR西日本の深瀬尚子氏がリーダーを務める「進化する土木技術調査SWG」では、最先端のさまざまな「すごい土木技術」の資料や映像などを収集、リスト化する。施工技術だけでなく、高度な調査・分析、設計、維持管理技術なども対象とする。土木構造物を造る上で極めて重要な企画から設計までのプロセスを「見える化」する方策も探る。集めた素材は、ほかのWGなどに提供して活用してもらう。

